

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
・「楽しく、心豊かで、魅力ある学校づくり」
- (2) 学習指導
・「自ら学ぶ意欲を育み、基礎・基本と活用する力を高める学習指導の充実」
- (3) 児童生徒指導
○「豊かな心をもち、自ら考え、適切な判断と行動ができる児童・生徒の育成」
- (4) 健康（体力・保健・食育・安全）
・「生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力の育成」

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1ー(1) 豊かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 基本的な学習態度・技能を身に付けさせるために、教師間での共通理解を図るとともに、児童に「学習の約束」を年度初めや学期初めに数回周知し指導に当たる。 ② 児童の考えを引き出し深める発問や板書を工夫し、自分の考えをもって学び合える学習活動を重視する。 ③ 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業研究会や職員研修を実施し、指導力の向上に努める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 90.8%で、目標値をやや上回った。 【次年度の方針】 ・児童の思考を深めるような学習活動を工夫し、学び合いを重視した授業を展開していくようにする。
1ー(2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 登校班での登校や縦割り班での休み時間の共遊、たんぼぼ学級との交流等を充実させ、相手の立場を考えて思いやる心を育てる。 ② 体験と関連を図った道徳科の授業を通して、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 89.5%、教職員の肯定的回答は 97.2%で、それぞれ目標値を上回った。 ・昨年度と同様に異学年との交流を図る機会を多くとることができ、思いやりをもって生活できた。 【次年度の方針】 ・次年度も縦割り班での交流遊び・清掃活動を継続し、思いやる心を育てていく。
	A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ② 各教科の授業や各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。 ③ 道徳の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、実践に向けた意欲を高める。	B	【達成状況】 ・児童の達成状況は、86.5%で目標値を上回った。 ・持久走の継続的な取り組みなどにより、目標をもって取り組む活動の機会を多くもてた。 【次年度の方針】 ・行事だけではなく、各教科の授業においても、目標を明確にし、児童が目標を意識して、毎時間取り組めるようにする。 ・目標達成までの過程を認め、励ます指導の充実を図る。

1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 児童が自分の健康に関心を持ち、自ら健康に気を付けて生活できるよう、体育、学級活動等の教科を中心とし、児童会活動や学校行事と関連させながら、運動・保健指導、及び日常生活指導を行う。 ② 普段の給食指導とともに「お弁当の日」を親子で食事を考える機会として、子どもたちの食への関心を高めて望ましい食習慣の形成を図る。 ③ 自らの命を守る行動力を育成するため、日常における安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100.0% ,保護者の肯定的回答は 91.0%で目標値を上回った。 【次年度の方針】 ・長期休みなどによる家庭での運動への取組や、食事・健康に関する啓発・促進等を通して、児童の体力・健康への保護者の理解と協力を促す。
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、夢や目標の実現に向けて粘り強く取り組めるような場を意図的に設ける。 ② 道徳科の授業や特別活動において「個性の伸長」や「集団生活の充実」について考える学習を充実させる。 ③ キャリアパスポートを活用し、自分のよさや成長を実感できるようにする。教職員や保護者がコメントを書くことで価値付けを図る。	B 【達成状況】 ・児童の達成状況は、89.8%で目標値を上回った。 【次年度の方針】 ・ワークシートを活用し、行事の振り返りを充実させるなどして、自分のよさや成長を実感できるようにする。 ・児童の実態に合わせた道徳の授業を展開する。学級活動では係活動を充実させ、自分の考えを生かしたり、良さを発揮したりできるようにする。
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は外国語活動（英語）の授業やALTとの交流の際に英語を使ってコミュニケーションしている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 外国語活動（英語）を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ② 外国語活動（英語）に関する校内研修などを実施し、指導力や英語力の向上を図る。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は、85.5%で目標値をやや下回った。 【次年度の方針】 ・授業中の活動以外にささいなコミュニケーションや指示にも英語を使用し、児童が「できた」と自覚して自己肯定感を高められるような声掛けをしていく。 ・外国語活動の校内研修を実施し、指導力や英語力の向上を図る。 ・授業以外でも、ALTとのコミュニケーションの場を工夫する。
	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、宇都宮の良さを知っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業において、教科書や副読本、映像資料等を活用し、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ② 教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的解答は、86.5%で目標値を上回った。 【次年度の方針】 ・宮っ子ランチやLRTを紹介するなど授業等で宇都宮の良さにふれる機会を引き続き設定していく。 ・5,6年は、総合的な学習の時間等で、さらに「宇都宮学」の学習を充実させたい。

2ー(2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 児童が、デジタル機器に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にデジタル機器を活用する。 ② 各学年の授業内容との関連に配慮した教育図書を充実させ、学校図書館の環境整備に努める。 ③ 定期的な読み聞かせや読書の時間の設定、すきま読書の習慣化などを通して、児童の読書意欲を喚起する。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 90.8%で、目標値をやや上回った。教職員の肯定的回答は 100%で、目標値を上回った。 【次年度の方針】 ・引き続き図書や一人一台端末を積極的に活用していく。 ・情報の選び方を児童に提示しながら、一人一台端末や本などの資料を適切に活用できるようにする。
2ー(3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は『持続可能な社会』について、関心をもっている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 総合的な学習の時間における環境教育等を通して、体験活動を効果的に取り入れ環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ② 過去の災害の具体事例などから学ぶ機会を設け、防災教育を充実する。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 89.5%、教職員の肯定的回答は 86.1%で、いずれも目標値を上回った。 ・総合的な学習の時間や理科・社会科等の教科指導を通して、環境への関心が高まるよう指導した。 【次年度の方針】 ・引き続き、総合的な学習の時間や理科・社会科等の教科指導の中で、環境問題や防災について身近なこととして考えられるよう、体験活動や野外授業などの学習を導入していく。
3ー(1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A 10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ② ユニバーサルデザインを意識した配慮を行うことで、教職員や児童の合理的配慮への意識の向上を図る。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率は 97.2%で目標値を上回った。 ・必要に応じて支援委員会等を開催することで、個に応じた支援を組織的に行うことができた。 【次年度の方針】 ・個別の支援計画を活用し、学校全体で共通理解を図り、適切な支援ができるようにする。 ・ユニバーサルデザインを意識し、誰にとっても分かりやすい学校及び教室環境の整備に努める。

3-(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 学級活動、道徳科の授業等を通して、人を思いやることや人権を尊重することの大切さを指導するとともに、日常生活の中でいじめが絶対に許されない行為であることを繰り返し指導する。 ② 児童会が主体となった、「いじめゼロ強調月間」の実施等を通して、いじめの起こらない環境づくりに努める。 また「いじめゼロ強調月間」での学校の取組を「児童指導だより」やホームページ等で保護者及び地域住民に周知する。 ③ いじめの早期発見、早期対応のため、いじめアンケートを年間4回行う。(5・9・12・2月) ④ いじめの早期発見や的確な児童理解のため、5、11月に全児童を対象に「教育相談」を行う。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 95.5%で、指標を上回った。 ・いじめ防止に関する校内研修や情報共有を定期的に行い、職員全体での意識向上が図れていた。 ・児童会主体で行った「いじめゼロ強調月間」や、いじめアンケートをもとに個別面談や教育相談を実施できていた。 ・いじめの初期段階で、情報共有を図り、迅速に対応できていた。 【次年度の方針】 ・これまでの取組を同様に行い、いじめの早期発見と組織的で迅速な対応を続けていく。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。【A5①再掲】 ② 教育相談、アンケート、Q-U調査等の結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童に係る情報の共有を図る。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 93.0%で、指標を上回った。 ・児童相互の認め合いの場や担任の励まし支援などが効果をあげていた。 ・会議後に毎月の状況確認を行い、対応について共通理解を図っていた。 【次年度の方針】 ・これまで通り、家庭との連携を図りながら、全職員で対応していく。
3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実 3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 児童が明るく充実した学校生活が送れるよう、諸活動を月ごとにバランスよく配置する。 ② 特別活動において、児童の主眼的な活動を重視するとともに、一人一台端末を活用するなど、縦割り班活動を可能な範囲で実施する。 ③ 授業や様々な活動を通して、教職員が児童のよさや努力を認め励ます指導を行う。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答が 95.5%で、指標を上回った。 ・縦割り班が、清掃や縦割り班での交流遊びだけでなく6年生を送る会などの行事でも活用されていた。 ・良さを認めていく指導方針が全職員で共通なものとして機能していた。 【次年度の方針】 ・これまで通り、行事を計画的に実施したり、縦割り班活動を様々な場で活用したりしていく。
4-(1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 分かる授業を目指し、授業研究会を行ったり指導法について研修を行ったりする。 ② 個に応じた指導の充実を図るため、児童の実態を把握し、学習内容に応じて少人数指導やTTによる指導等を取り入れるなど、学習形態を工夫する。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 94.8%で、目標値を上回った。 ・本校の研究テーマに基づいた授業研究会を実施することができた。また、研究を進めることを通して、児童の学力向上並びに教員の指導力向上につながった。 【次年度の方針】 ・授業研究会や指導法についての研修を行い、引き続き指導力の向上に努める。

4－(2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 教職員が、学校図書館司書、かがやきルーム指導員、ALT、SC等の専門性を有する学校スタッフと、コミュニケーションを図りながら連絡調整を行い、業務の推進に努める。 ② 学校の諸課題への対応や、学校行事の準備・運営等に、教職員が相互に助け合いながら「チーム陽東」として取り組むよう努める。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 97.2%で、目標値を大きく上回った。 ・それぞれで密に連携を図ったり、ティームティーチング授業を行ったりしながら、業務に取り組んだ。 【次年度の方針】 ・教職員の情報共有を密にし、様々な教職員が児童一人一人に関わることのできる体制をつくる。
4－(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 教職員の業務の負担軽減に向けて、学校支援ボランティア等の効果的な活用をより一層図る。 ② 行事の精選を含め、業務のスリム化に向けた取組を行っていく。 ③ 教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 91.7%で、目標値を上回った。 ・行事と教科の内容を抱き合わせながら、業務のスリム化に取り組んだ。 【次年度の方針】 ・教職員間のコミュニケーションを軸に、教材や指導法の蓄積や行事等の精選を行いながら、業務の効率化、適正化に努める。
5－(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17○学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①○学校園のテーマを基に、分科会・教科部会等で重点化を図り、小中一貫教育の推進に協働体制で取り組む。 ②○学年だよりや学校だより、ホームページ等で、取組の状況を紹介するなど、家庭や地域への広報活動を積極的に行う。 ③○地域学校園事務室や、各種分科会等の活動を通して、学校園内の相互支援体制を充実する。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 84.7%で、目標値を上回った。 ・地域学校園各教科部会、分科会でのテーマに即し、特に中 1 ギャップ解消のための活動ができた。 【次年度の方針】 ・小学校と中学校の教職員間でより一層の連携を図りながら、小中一貫教育の推進を図る。 ・ホームページやたよりを活用して、小中一貫の取組についての広報活動に努める。
5－(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5－(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 早寝早起きや朝食をとること、あいさつや言葉遣いなどをはじめ、学校での指導について保護者に伝えるとともに協力を呼びかけ、家庭と連携を図ることで、望ましい生活の習慣化を図る。 ② 児童が人とかかわりながら、体験的に学ぶ機会を充実させるため、保護者や企業、学習ボランティアやコーディネーターなどの地域団体等の協力を得た授業を実施する。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 93.0%で、目標値を大きく上回った。 ・学習支援ボランティアやさまざまな施設・企業等による出前授業を効果的に活用して、児童の学習支援を行うことができた。 【次年度の方針】 ・今年度と同様にたより等による、基本的な生活習慣についての啓発を図るとともに、学校での取組や成果についても知らせるようにする。 ・学習支援ボランティアとの連携を密にし、教育活動の充実を図る。

6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館等を、チェック項目に基づく安全点検を実施し、危険箇所については、迅速な改善や修繕に努める。 ② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入の不測の事態の備えを万全にする。 ③ 熱中症予防対策、感染症蔓延予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 91.4%，教職員の肯定的回答は 97.2%と、いずれも目標値を上回った。 ・安全点検を月に 1 回行い、その都度確認や修繕依頼等を行った。 ・養護教諭を中心に衛生面への環境整備や職員・児童への周知、共通理解を行い、熱中症対策や感染症の予防意識が校内で高まった。 【次年度の方針】 ・引き続き、手洗い・うがいや消毒、換気など、感染症予防に向けた取組を進めていく。 ・月に 1 回の安全点検を行い、改善・修繕を行う。 ・避難訓練については、不測の事態に対する事前の指導を心掛け、繰り返し行っていく。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、授業（授業準備も含む）や業務に、デジタルを積極的に活用している」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 情報教育主任を中心に、機器の操作を得意とする教職員が積極的に ICT 機器の活用を推進し、その有効性を教職員間に広めていく。 ② ICT 機器の活用について、研修等を計画的に行うなど、学ぶ機会を設けていく。 ③ ICT 支援員との連携を図り、授業準備を計画的・組織的に行う。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 97.2%で、目標値を大きく上回った。 ・ICT 支援員を積極的に活用し、デジタル機器の活用に努めた。 【次年度の方針】 ・ICT 支援員と連携を図り、学習のねらいに即したデジタル機器の活用を図る。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 ○児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 B2 ○児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、きまりやマナーを守って生活をしている」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 登校班長会議や一斉下校での日常的なあいさつ指導とともに、放送や広報、さらに計画・集会委員会による「あいさつ運動」を実施する。生活目標の中にあいさつに関する目標を頻繁に入れて、意識を高める。 ② ○地域学校園で設定した「あいさつの日」を設け、実施するとともに、保護者への啓発活動を行い、学校・家庭・地域が連携してあいさつへの意識を高めていく。 ③ 時と場に応じたあいさつについて、具体的な場面を想定させて指導する。 ① 規範意識や社会生活上のルールを尊重する態度を育てるため、「陽東小の児童の一日」を各教室に掲示し日常的に指導を行う。 ② 基本的な生活習慣を身につけさせるため、隔週で生活目標を設定し、生活当番を中心に全職員で指導を行う。 ③ 「陽東小の合い言葉」をもとに、児童が相互に認め合う場や教師が称賛する機会を多く設け、意識付けしながら実践意欲を高める。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答が 90.5%で、指標を上回った。 ・あいさつ運動を、全校児童が主体的に関わることができるように工夫して実行できた。 ・地域の方や来校者にあいさつできる児童が増えた。 【次年度の方針】 ・これまで通り、あいさつ運動が児童主体のものになるように働きかけを行っていく。 C 【達成状況】 ・児童の肯定的回答が 91.3%で、指標を上回った。 ・職員間で学校全体のルールを適宜確認し、足並みをそろえた指導支援ができた。 ・生活目標を意識できる取り組みが各学級でなされ、毎日児童が自分の行動をふり返って生活を送ることができた。 【次年度の方針】 ・学校の決まりを見直すとともに、時期に合った生活目標を設定していく。

	B 3 ○児童は、家庭においても家庭学習や読書の習慣が身に付いている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、家庭でも学習や読書に進んで取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 家庭学習の習慣化を図るため、家庭学習の時間や内容、方法等に関するガイドラインを全職員で共有し、指導にあたる。 ② 学年に応じて自主学習帳を活用したり、家庭学習の記録を行ったりし、教師がそれらに目を通し、認め励まして継続できるようにする。 ③ 読書の記録を活用したり、各学年の必読図書を家庭に知らせたりする。	A 【達成状況】 ・児童の肯定的回答の割合は 80.0%で、目標値を下回った。 ・家庭学習の習慣化を図るために、宿題の出し方や自主学習のやり方を検討してきた。 【次年度の方針】 ・自主学習帳は、使い方を工夫しながら、今後も継続して使用する。 ・家庭学習の取組方や適切な量と質について紹介したり、教師が児童の頑張りを認め励ましたりすることで、児童の自己肯定感を高めるようにする。
	B 4 学校はあいことば「元気なあいさつ」を具現化する活動に取り組んでいる。【やる気】 【数値指標】 全体アンケートの「学校はあいことば『元気なあいさつ』を実現するためにあいさつ運動などの具体的な取組を行っている」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 放送・広報委員会等によるあいことば週間（あいさつ運動）を行い、校内あいさつの活性化を図る。 ② 校外でのあいさつの状況を把握し、学級、登校班長会議、一斉下校などの機会を捉えて指導する。 ③ 校内での取組を、学校だよりやホームページなどに掲載することにより保護者や地域の方にも周知し、協力を得る。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答が 90.7%で、指標を上回った。 ・あいさつ運動が効果的に実施され、その様子を HP に掲載して周知することができた。 【次年度の方針】 ・これまで通り、効果的なあいさつ運動を実践し、取組の様子を学校内外で紹介していく。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B 5 学校はあいことば「だれにも親切」を具現化する活動に取り組んでいる。【思いやり】 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、あいことば『だれにも親切』を実現するために、親切カードの活用や、幼稚園や保育園との交流などの具体的な取組を行っている」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 親切委員会によるあいことば週間「親切の○○」を行い、全校で盛り上げる。 ② 各クラスで友達の親切なところやすごいところをカードに書く「ありがとう・すごいねカード」に取り組ませる。 ③ 幼稚園・保育園との交流、縦割り班活動、地域の方との交流等、児童の主体的な活動を推進する。 ④ 道徳授業やいじめゼロ集会などを充実させたり、人権教室の開催と人権週間における啓発を行ったりする。 ⑤ 特別支援学級との交流及び共同学習や縦割り班活動を推進する。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 91.5%で目標を上回った。 ・親切委員会による「親切のお菓子や親切の郵便」の取組が、肯定的回答につながったと考える。 ・幼稚園生や特別支援学級と積極的に交流したことで、お互いに子供たちの心の成長が見られた。 【次年度の方針】 ・来年度も道徳の授業を充実させると共に、いじめゼロ集会を実施する。 ・今後も引き続き、あいことば週間の取組を充実させていく。 ・体験活動を通し、地域の方との交流を図る。
	B 6 学校はあいことば「きれいな陽東」を具現化する活動に取り組んでいる。【根気】 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、あいことば『きれいな陽東』を実現するために、清掃活動やボランティア活動、地球に優しい活動（学校版環境 ISO）などの具体的な取組を行っている」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 環境美化委員会によるあいことば週間（清掃がんばり週間）を行い、環境・美化の意識を高める。 ② 全校除草活動、全校落ち葉清掃活動、PTA 奉仕作業、縦割り班清掃を推進する。 ③ ふれあい班を中心としたプランターの管理や栽培活動を行う。 ④ 校内での取組を、学校だよりやホームページなどに掲載することにより保護者や地域の方にも周知し、協力を得る。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 94.1%で目標値を上回った。 ・環境美化委員会の清掃活動、あいことば運動は、あいことばの「きれいな陽東」を実現するための役割を果たした。 【次年度の方針】 ・今後も「きれいな陽東」を具現化するために様々な活動を行っていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【教育活動全体の状況】

・評価項目26項目中24項目において、肯定的な回答の割合が目標値を上回り、今年度の様々な教育活動が児童の健やかな成長のために効果をあげたと言える。また、児童の肯定的回答の割合は、25項目の評価項目で85%以上を示している。「陽東ピカイチ賞」等で児童のよさを認め励ましてきたことや、良さを認めていく指導方針が全職員で共通なものとして機能していたことが一助であるのではないかと考える。

また、昨年度に引き続き、学校での様々な活動や地域の行事が特段の制限なしで開催され、学校や地域の日々の生活に、児童が満足感を感じていることがうかがえる。

【学習面】

・「分かる授業やきめ細かな指導」について、児童の肯定的回答は94.8%で、指標を4.8%上回った。本校の研究テーマに基づいた授業研究会を実施することができたことや、研究を進めることを通して、児童の学力向上並びに教員の指導力向上につながったと考える。今後も、教職員一人一人が授業力をいっそう高め、体験活動を充実させるなど、児童が意欲をもって熱中する授業を展開するよう努めたい。

一方、「家庭学習への取組」については、児童の肯定的回答の割合が指標を5.0%下回った。今後、家庭学習の取組方や適切な量と質について紹介したり、教師が児童の取組を認め励ましたりすることで、児童の自己肯定感を高めるようにしていきたい。

【生活面】

・「きまりやマナーを守ること」についての児童の肯定的な回答の割合は、指標を6.3%上回った。職員間で学校全体のルールを適宜確認し、足並みをそろえた指導支援ができていたことや、生活目標を意識できる取り組みが各学級でなされ、毎日児童が自分の行動をふり返って生活を送ることができていたことが児童の規範意識の向上につながったと考えられる。

・「思いやりの心」についての児童の肯定的な回答も、指標を4.5%上回った。親切委員会による「親切のお菓子」の取組、さらには、異学年との交流を図る機会を多くとることができ、思いやりをもって生活できた結果と考える。

・「いじめ対策」については、児童の肯定的な回答が指標を10.5%上回った。いじめ防止に関する校内研修や情報共有を定期的に行い、職員全体での意識向上が図れていたことや、児童会が主体となった「いじめゼロ強調月間」、いじめアンケートをもとに個別面談や教育相談を実施することができていた結果と考える。また、いじめの初期段階で、情報共有を図り、迅速に対応できていた。

・「あいさつ」については、児童の肯定的な回答が指標を0.5%上回り、地域住民の肯定的な回答については100%となった。あいさつ運動の方法を、全校児童が主体的に関われる形に変更して実行できたことや、「あいさつ運動」をはじめとした取組を行ってきた成果地域の方や来校者にあいさつができる児童が増えている結果と考える。しかし、児童の実態を見ると個人差があり、教職員や保護者の肯定的な回答は、85%未満にとどまっている。今後も、引き続き、家庭・地域と連携を図りながら、全校体制で取り組んでいきたい。

【本校の特色】

・「元気なあいさつ」「だれにも親切」「きれいな陽東」3つの項目で、保護者の肯定的回答が全て指標を上回った。学校教育目標を受けた「陽東小のあいことば」が浸透し、それを意識した生活がおおむねできていると言える。また、「あいことば週間」を設けて、子供たちの目に見える形で具体的な取組を行ってきた成果であると考え。今後も、「陽東小のあいことば」を柱として教職員が指導し、児童自身も自覚をもって学校生活を送るとともに、保護者や地域の方々の協力を得ながら、児童の健やかな成長を地域全体で見守っていく陽東地域の良さを継続していきたい。

7 学校関係者評価

【交通安全指導について】

・本校学区内の交通事情の変化により、子供たちの登下校の見守り人数の不足を感じる。児童への交通安全に関する指導を十分に行うとともに、「自分の身は自分で守る」という意識の高揚を図ってほしい。

【図書の充実について】

・図書室や各教室前に図書が充実している。何でもパソコンでインターネット検索をするのではなく、本を活用したり対面で話を聞いたり、ハイブリッドに情報活用をしてほしい。

【学習について】

・子どもたちの学ぶ意識は高いと感じる。宿題が多いと感じるので、学ぶ必要感や意欲とのバランスをとることが大切と思う。

・英語の学習が進んでおり、英語の発音がよいと感じる。それに伴い、日本語も正しく使わせたいと思う。

【ICTの活用について】

・子どもがパソコンを使用する際、タイピングが速いと感じた。使いこなしている様子が見られた。今後は、活用方法や有効性を精査して、ハイブリッドに活用していただいたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 今年度も、生活科・総合的な学習の時間をはじめとして、一人一台端末を積極的に活用するとともに、「リアル」と「デジタル」のハイブリッドを目指し、授業展開の工夫に努めた。また、個に応じた指導ができるよう、習熟度別や少人数での指導、ティームティーチングによる指導など学習形態を工夫して、「分かる授業」の展開に努めた。その結果、児童一人一人に学力の定着がなされてきており、各学力調査にもその成果が表れている。
- 今後さらに、家庭学習の内容等について職員で協議し、それを保護者にも示し、理解と協力を得ながら家庭学習への取組の充実を図っていききたい。
- ・ 次年度も「いじめ防止」や体罰の根絶に向けて、児童に対して年４回のアンケート調査と、その都度行う教育相談による早期対応及び教職員の研修等を随時実施していく。さらに学校の行っている取組を保護者や地域住民へ周知できるよう、「学校だより」「学年だより」等の発行やホームページの細かな更新に努め、情報発信の機会を多くし、その方法・内容の検討・改善を図っていききたい。
 - ・「陽東小のあいことば」に合わせた取組を次年度も継続して行う。また、それについて家庭や地域にも情報を発信し、陽東地域全体にいつそう広め、学校を核とした地域づくりを目指していききたい。
 - ・「陽東ピカイチ賞」の実施や発達段階・児童の実態に合わせた各学級での取組により、自分の言動を定期的に振り返ったり、よい行いを認め合ったりする機会を設け、児童の自己肯定感のいつそうの高まりや望ましい行動への意欲付けを図っていききたい。
 - ・教職員個々の業務の見直しやＩＣＴの活用により、校務の効率化と適正化を図り、働き方の改善をさらに推し進めていきたい。